

教育

広がる 情報モラル教育



子どもたちにスマホの普及率が上がっている資料を示す大塚教諭＝愛知県知立市の知立西小で

スマートフォンが子どもにも普及する中、小中学校や高校は、子どもたちの成長に応じた情報モラル教育を進めている。複雑そうに見えるが、基本的な道徳心の育成と、インターネットの特性の理解が二本柱という。

(佐橋大)

個人情報流出、ネット依存…

愛知県知立市、知立西小学校の五年三組は「小学生もスマホを持つことをどう思うか」について話し合った。「必要ない。知らないボタンを押して、お金を取られるかもしれないから」「ルールを作れば持つていいんじゃないか」「これからはコンピュータの時代。持つべきだと思う」

担任の大塚悠矢教諭は、前の時間までで学習した、会員制交流サイト（SNS）に上げた写真から個人情報流出する危険性や、ネット依存の弊害を思い起させた上で、スマホを持つことについて話し合った。

スマホのルール 考える授業

学校での教育内容を定める学習指導要領では、改定前に、情報モラル教育の占める割合が増えている。

児童・生徒のスマートフォン保有率 内閣府の実施する青少年のインターネット利用環境実態調査によると、2017年の携帯電話・スマホの所有率は、小学生で55.5%、中学生が66.7%、高校生が97.1%。伸びが著しいのは小学生で、過去5年で倍以上に増えた。

◇

情報モラル教育は、情報社会で生活するのに必要な知識や態度を身に付けるために行う。同小の五年生は総合的な学習の時間に、下級生に分かるように校外学習の紹介資料を作るなど、パソコンを通して情報の活用を学んだ。その流れで、大塚教諭は、五年生でも関心が高まっているスマホを題材に、情報モラルを考える授業を展開した。

ネットの特性知り 道徳心育てる必要



嫌だと思う順番に上から並べたカード。人によって嫌だと思うことは違う＝愛知県刈谷市の愛知教育大で

情報モラル教育の基本は何か。教員免許の更新講習から考えた。昨年十二月下旬に愛知県刈谷市の愛知教育大で開かれた講習では、教員たちが、「すぐに返信がない」「自分が一緒に写っている写真を公開される」などと書かれた五枚のカードを前に、「友達から送られて嫌なことを話し合っていた」。

「写真の公開」が嫌という人、もういっしょに話をしていこうと、ケータイ、スマホをさわっている人、スマホの所有率は、小学生で55.5%、中学生が66.7%、高校生が97.1%。伸びが著しいのは小学生で、過去5年で倍以上に増えた。

実際に、無料通信アプリ「LINE（ライン）」を運営するライオン社が出前授業用に開発した教材。「人によって嫌だと思うことは違う」という一般的な道徳心育てる必要

小学校で二〇一一年度、中学校で二年度に始まった今の学習指導要領は、ともに情報モラルを身に付けることを総則に明記。道徳では「情報モラルに関する指導に留意すること」との記述が加わり、小学校で一八年度から使われている教科書には「個人情報をもやみにネット上に公表しない」といった内容が含まれている。携帯電話の会社の社員や警察官を講師に呼び、SNSを使う際の注意点を子どもに考えさせる学校もある。

短信

◆表現力で特別講演会 河合塾は3月2日午後1～5時、表現力をテーマにした特別講演「学びみらいプログラム2019」を、名古屋・名駅の河合塾名駅キャンパス名古屋校で開く。無料。中学生、高校生、保護者が対象。ロボット研究者で大阪大学大学院基礎工学研究科名誉教授の石黒浩さん、コピーライターの阿部広太郎さんらが講演する。特設ページ（「河合塾」「学びみらいプログラム」で検索）で申し込む。先着順。

身近な教育の話題や NIEの情報を寄せてください
中日新聞編集局 教育報道部
Eメール kyoiku@chunichi.co.jp
FAX 052(221)0591